

社団法人 日本女子体育連盟 平成22年度通常総会議事録

日 時：平成23年度5月22日（日）10：00～15：30
会 場：お茶の水女子大学人間文化創成科学研究棟6階大会議室

1. 開会宣言 高橋和子副理事長

2. あいさつ

村田芳子理事長
松本千代栄会長
片岡康子顧問

3. 出席者の確認

松本会長、片岡顧問、川口参与、高橋参与、林参与、
役員23名（理事22名、監事1名）
正会員（出席13名、委任状20名）、特別会員（出席32名、委任状127名）
※定足数（正会員、特別会員）計192名（現数267名）
定款第30条に基づき、通常総会成立
※代理出席1名

4. 議事録署名人の選出

細川江利子常務理事、寺山由美理事を署名人に選出

5. 議 長 定款第27条に基づき、村田理事長が議長となる

書記：特別会員・生涯スポーツ研究専門委員会 西田晶子委員、多田五月委員

6. 議 題

（1）報告事項

1) 理事長報告：村田芳子理事長より以下の報告があった。

1. 慶弔・表彰等関係

弔意／ 細江文利先生（東京学芸大学）ご逝去

表彰／（財）日本教育研究連合会平成22年度「教育研究賞」表彰（連盟推薦）
前・正会員（埼玉県女子体育連盟・前会長）大保木道子氏、
特別会員（同 事務局長）大原和子氏

祝意／ 相場了参与出版記念

相場了編著『今を生きる子どもたち』
水野正人氏（ミズノスポーツ振興財団会長）ユネスコ賞受賞

顕彰／ 第7回J A P E W賞

指導者賞；檜山良子氏（茨城）小泉洋子氏（茨城）倉田安子氏（栃木）

石澤宣子氏（富山）大谷光子氏（滋賀）石村民子氏（愛媛）

研究奨励賞；中村恭子氏（順天堂大学）

寄付／ 日本体育協会・日本オリンピック委員会創立100周年記念事業へ¥300,000

2. 後援・協賛承諾および役員等応嘱関係

応嘱／ (財)スポーツ安全協会 理事一任期；H20.12.10～H22.12.9

(財)スポーツ安全協会 理事及び副会長一任期；H22.12.10～H24.12.9

国際女子体育連盟（IAPESGW）日本代表

(財)日本体育協会・全国スポーツ指導者連絡会議 代表委員－笹本常務理事

大学体育問題連絡会 連絡委員－飯田常務理事

日本スポーツ体育健康科学学術連合 運営委員－細川常務理事

後援／体操フェスティバル2010 OSAKA国際大会第28回記念大会（及び大会顧問）

アーティスティックムーブメント・イン・トヤマ2010

第18回ねりま体操フェスティバル

第49回全日本学生なぎなた選手権大会（及び大会顧問）

第12回なかの国際ダンス・コンペティション

(財)日本スポーツクラブ協会 第5回子ども身体運動発達指導士資格認定講習会

協賛／ 日本健康科学学会第26回学術大会

3. 補助金関係

(財)ミズノスポーツ振興財団／女子体育振興助成金交付 ¥1,000,000

(財)スポーツ安全協会／助成金交付 ¥100,000

日本スポーツ振興センター／スポーツ振興基金 ¥1,500,000

<JAPEW SUMMER SEMINAR 2010/第44回全国女子体育研究大会（東京）に対して>

日本教育シューズ学校体育振興基金／助成金交付 ¥250,000

4. 研究および会議出席等関係

1) 研究関係

○本部と加盟団体との共同研究（詳細は事業報告参照）

継続／富山県女子体育連盟「からだ遊びの新しいアプローチ」（共同研究者；村田芳子）

新規／新潟県女子体育連盟「いきいきと輝く心と体～つなぐ思い～」(共同研究者:高橋和子)

○平成22年度(財)ミズノスポーツ振興財団研究助成／連盟推薦・採択

研究代表・寺山由美氏－¥1,000,000

研究課題；「元気な子どもと女性のライフステージを保障する運動プログラムの開発

—中学2年女子の体力向上を視野において—」

○(社)日本女子体育連盟「学術研究 第27号」(刊行準備中)

学術研究第25号まで電子化されている。第26号からはそれぞれの団体でデータ化を立ち上げ

J-STAGE で公開している。JAPEW も平成22年度から立ち上げる。

2) 会議等出席関係

全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）運営委員会（4/24、7/3、8/3、10/9、12/11）

(財)スポーツ安全協会理事会・評議員会

健康日本21推進・第9回全国連絡協議会（西田委員）

(財)日本体育協会評議員会(高橋眞琴参与)、指導者連絡会議(笹本副理事長)
文部科学省／平成22年度子どもの体力向上指導者養成研修会の講師

※小学校及び中学校・高等学校；村田芳子、茅野理子、細川江利子、高野牧子、寺山由美
文部科学省／「検定試験の評価ガイドライン」説明会(笹本副理事長)

日本スポーツ体育健康科学学術連合平成22年度総会・第2回運営委員会

(財)日本体育協会主催「新公益法人制度」に関する情報交換会(寺山理事)

5. 主催、共催事業関係(詳細は事業報告参照)

JAPEW SUMMER SEMINAR 2010/第44回全国女子体育研究大会(東京) 終了

※第46回全国女子体育研究大会(H24年)兵庫県に決定、第47回(H25年)山梨県開催内定
第23回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 終了

ダンスムーブメント指導員A・B・C級養成および検定講習会 終了

ダンスムーブメント指導員クリニック 終了

ウインターセミナー 終了

ブロックセミナー2010 in 大阪 終了

※2011年度ブロックセミナーは宮城開催の決定、2012年度香川開催の内定をしていたが、
震災の影響により2011年度は香川での繰り上げ開催とする。

国際交流／ニナ・マーチン氏ワークショップ終了

6. 連盟関係

委嘱／参与・林眞幾子(前副理事長)

全国理事会開催 8/7、3/12(5/21に変更)

生涯スポーツ諮問委員会 2/20

※出席委員／理事長、高橋参与、林参与、笹本副理事長、飯田常務理事、大塚監事、野崎(特別会員/DMIL-A)、
小松(正会員/DMIL-A) 陪席／片岡顧問、佐藤理事、寺山理事

J A P E W賞選考委員会開催 6/27

※出席委員／指導者賞—理事長、片岡顧問、高橋参与、林参与、笹本副理事長

研究奨励賞—理事長、金子顧問、片岡顧問、細川常務理事、林(信)理事、茅野理事

法人登記変更届(決算および正味財産)

文部科学省および(財)日本体育協会／21年度事業報告・22年度事業計画・財務諸表等 届出
文部科学省／22年度特例民法法人概況調査提出

公益社団法人化に向けた定款改正・会計整備(文部科学省・税理士・司法書士の指導)

文科省公益法人実地調査

寄付／川口千代参与

7. その他

NYC／庁舎等使用申請書提出(事務局使用許可)

NYCおよび在居団体懇親会(高野常務理事、飯田常務理事)

日本教育シューズ賀詞交換会—理事長、笹本副理事長

NHK主催・スポーツ関係者新年交歓会—出席／理事長、高橋副理事長

(財)日本体育協会「22年度加盟団体事務局長会議」—出席／(代理)花澤職員

2) 会長報告：松本千代栄会長より以下の報告があった。

1. 役員応嘱

(財)波多野ファミリースクール 評議員

(財)松山バレエ団 評議員

舞踊学会名誉会長

第23回全日本高校・大学ダンスフェスティバル (神戸) 実行委員会顧問
同 大会名誉会長

2. 出席行事

第23回全日本高校・大学ダンスフェスティバル (神戸) (2010年8月4-6日)

アーティスティックムーブメント・イン・トヤマ2011/松本千代栄賞 贈呈

(2010年9月19・20日)

(財)波多野ファミリースクール 評議員会 (2011年3月1日)

3. その他

元監事・伊澤やゑ子先生 七回忌にあたってのご出版

『伊澤やゑ子を偲んで』 編集・出版 高橋明代氏

執筆/序文; 「讃 伊澤やゑ子先生」 松本千代栄

相場了参与 出版記念祝賀会出席・祝辞 (2010年8月22日)

(2) 審議事項

1) 平成22年度 事業報告

村田理事長より写真映像による活動報告(サマーセミナー、ウインターセミナー、ダンスフェスティバル、DMIL、ブロックセミナーなどの講習会の模様)があった。

続いて、以下詳細な事業報告があり、全会一致で承認された。

I 教育・研修

1. JAPEW SUMMER SEMINAR 2010 / 第44回全国女子体育研究大会 (東京)

□生涯スポーツ/授業・保育/研究交流専門委員会(飯田常務理事、佐藤理事、七澤理事、中村な理事)

□第44回全国女子体育研究大会実行委員会

テーマ 「からだ・こころ・いのち」と表現・ダンスーライフステージのつながり広がりー

期 日 8月7日(土)・8日(日)

後 援 文部科学省、東京都、(財)日本体育協会、(財)スポーツ安全協会、(財)ミススポーツ振興財団

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

内 容 全体会(開会式・表彰式・基調提案・講演・公開演技)、ワークショップ、分科会

参加者 全国幼保・小・中・高校および大学、生涯スポーツ指導者等

参加費 会員(正会員・特別会員・購読会員)10,500円、一般13,650円、学生5,250円

※会員=正会員・特別会員および購読会員

日程概要

	午前		午後	夕刻-夜間
8/7 (土)	受付	ワークショップ(選択) ①コンテンポラリーダンス(森山開次) ②HIP HOP(TAKA) ③日本の民踊(青木峰子) ④フリースタイルヨガ(David France) ⑤音・ことばとダンス(石渕聡)	全体会 開会式・表彰式 基調提案 講演・和太鼓演奏 林 英哲 公開演技	理事会 レセプション
8/8 (日)	午前		午後	
	第1分科会	「子どもの多様な個性と向き合う ーともに生き、共に育つコミュニケーションカー」 (零 境 他)	分科会報告	
	第2分科会	「からだの主人公になるために ーこどものからだ(身体感覚)の危機ー」 (小澤治夫、高橋和子 他)	ショーイング	
	第3分科会	「新学習指導要領に対応したこれからの表現運動・ダンス学習ー楽しさや喜びを味わう生きる力の再確認ー」 (片岡康子、村田芳子 他)	閉会式	
	第4分科会	「美しく生き生きと齢を重ねる ーダンスムーブメントの実際ー」 (高橋真琴、飯田路佳、佐藤廣子)		
第5分科会	「今日を生きる 明日に活かす ー生涯現役であるために学ぶ、達人の生き方ー」 (若松美黄、酒井久実代 他)			

<概要>

平成22年度のサマーセミナーは、「JAPEW サマーセミナー2010/第44回全国女子体育研究大会(東京)」として、本部の全メンバーの協力の元、開催された。参加者の内訳は、会員290名、一般146名、学生61名の計497名であった。

初日の午前には、バラエティに富んだ5つのワークショップ(森山開次氏「コンテンポラリーダンス」、TAKA氏「HIP HOP」、青木峰子氏「日本の民舞」、デビッド・フランス氏「フリースタイルヨガ」、石渕聡氏「音・ことばとダンス」)から始まり、午後の全体会では、林英哲氏の講演と和太鼓演奏、幼稚園児から、AJDFの参加校、高齢者までの9グループによる演技発表が行われた。

2日目は、5つの分科会に分かれ、第1分科会「子どもの多様な個性と向き合うーともに生き、ともに育つコミュニケーションカー」、第2分科会「からだの主人公になるためにーこどものからだ(身体感覚)の危機ー」、第3分科会「新学習指導要領に対応したこれからの表現運動・ダンス学習ー楽しさや喜びを味わう生きる力の再確認ー」、第4分科会「美しく生き生きと齢を重ねるーダンスムーブメントの実際ー」、第5分科会「今日を生きる 明日に活かすー生涯現役であるために学ぶ、達人の生き方ー」というように、それぞれ校種別ではない枠組みで新たなアプローチを試みた。

参加者のアンケートからは、ワークショップ、全体会、分科会とも大変好評で「本部開催ならではの贅沢な講習がうけられた」などの意見の他、「毎年くるたびに、本当にきてよかったと思えた」のように、今年度はサ

マーセミナーとの共同開催であったことから、毎年のサマーセミナー参加者からも満足を得たとの意見も多数みられた。一方で、「飛行機代や交通費の高い時期である」ことや「ダンスムーブメントが以前より少なく感じる」などの意見もあり、まだまだ今後も発展できる可能性も示唆された。

2. 関連研究プロジェクト

(笹本副理事長)

○研究タイトル：『元気な子どもと女性のライフステージを保証する運動プログラムの開発』

一体づくり運動(体操)・ダンスプログラムを中心にー

○メンバー／笹本重子(日本女子体育大学)、高橋和子(横浜国立大学)、

飯田路佳(十文字学園女子大学)、高野牧子(山梨県立大学)、寺山由美(筑波大学)

○プロジェクト1年目に当たる今年度は、以下のような活動を行った。

1) 体力や心理面の実態把握のための調査の実施と運動プログラムの有用性の検証

①対象…小学校低学年、中学校2年生、高等学校2年生、大学1年生、生涯スポーツの女性

②調査内容…新体力テスト(上体起こし、片足バランス、スクワット)、生理的変容(体温上昇アミラーゼ活性)、心理的变化(アウエアネスインベントリー、自己肯定尺度)

2) 文献研究と研究構想の為の勉強会

II 研究・刊行

1. 『女子体育』編集・刊行

□『女子体育』編集専門委員会(高野牧常務理事、中村恭理事)

①22年度年間テーマ『からだ・こころ・いのち』と表現・ダンス』

年間テーマを『からだ・こころ・いのち』と表現・ダンス』として、乳幼児から高齢者まで、人々が一生涯を通じて健康に、また、障がいや疾病を持っていても生き生きと暮らすことができるよう、各ライフステージを見つめ、そのつながり広がりをおお切にした「からだ・こころ・いのち」と表現教育について、ダンスや体育・スポーツの視点から考えるものとした。本テーマを基に、ひとりひとりが生きる力を育んだり、これを支えたりするために、家庭・地域・学校でのダンスや体育・スポーツの実践および普及・振興が大きな力を発揮する、との信念を託して、1年間の企画・編集を行った。

②月テーマ(年間10号刊行：通常編集誌7号と特集誌3号)

《通常編集誌》

4月号 ゴールはどこだ!?

1月号 からだに響く言葉

5月号 「自分をあらわす」という冒険

2月号 わかりあえない・わかりあいたい

6月号 変化を見極めるーアリの眼とトリの眼

3月号 現在(いま)をたしかめる

9月号 失敗から学ぶ

《特集誌》

7・8月号 保存版!ダンス指導ハンドブック 第2弾

10・11月号 第23回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 報告特集号

12月号 JAPEW SUMMER SEMINAR 2010/第44回全国女子体育研究大会(東京) 報告特集号

③編集方針

採り上げる各テーマ、各領域において、ライフステージのつながり広がりをおお頭に置き、読者がそれぞれの立ち位置や今後の展望を探ることができる内容を提供したいと考えてきた。また、共生社会の理解、新学習指導要領の理解という視点もおあわせ、指導者個々が主体となって指導論および

指導方法を組み立て、実践展開することに役立つ冊子構成を目指した。毎号の内容は、「読みやすい」「現場の指導に役立つ」「幅広い情報」を目指して、より一層の充実をはかった。

- ①ライフステージの接続に注目した記事構成
- ②現代を代表する識者、実践・研究者などへのインタビューを通じて幅広い視点を得た
- ③連載Q&Aを終了し、新連載「Good Practice 取材レポート」（2ページ）を開始した。
地域の優れた活動を紹介し、生涯スポーツ領域の情報発信を充実させた。

④年間購読料について

一般購読 5,500円（税込）、学生購読 3,500円（税込）とした。

2. ウインターセミナー

□研究交流専門委員会（中村な理事、羽岡委員）

期 日 平成23年2月11日（祝・金）

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター（カルチャー棟小ホール）

内 容 ①研究発表部門 <第54回未来世代の研究発表会（卒論・修論）>
②卒業ダンス作品発表部門

概 要 昨年度より「未来世代の研究発表会」（卒論・修論・博論）と「卒業ダンス作品発表」という2つの内容を柱とし、3月に大学を卒業・修了する未来世代の若者が、研究やダンスの成果を発表、交流しあった。当日は、121名（研究発表62名、ダンス発表59名）の参加を得た。

午前中の研究発表では、修士論文4題の口頭発表、午後には卒業論文・修士論文の50題のポスター発表が行われた。運動生理学や体育社会学、体育科教育、ダンスなど、多様な分野における若者ならではの新鮮な視点による研究と真摯な発表に、会場も熱気に包まれた。なお、発表論文の中から優秀論文を『女子体育』に掲載する。

卒業ダンス作品は11大学12作品が発表し、4年間ダンスを専門として学んできた学生を中心として、教師としてダンスの指導法を学んできた学生の発表もあり、ダンスとの様々な関わり方が感じられる舞台上、それぞれに大学生生活最後の力作を熟演した。フィナーレは、研究発表部門の学生たちも参観し、参加者全員で踊り、よき交流の機会となった。

3. 「学術研究」刊行

□学術研究編集委員会（細川常務理事）

「(社)日本女子体育連盟学術研究第27号」を刊行し、会員および関係機関・関係者に送付予定。

4. 関連研究

(村田理事長)

以下の共同研究を実施し、成果をあげた。

(継続) 村田芳子ー富山県女子体育連盟 研究課題「からだ遊びの新しいアプローチ」

(新規) 高橋和子ー新潟県女子体育連盟 研究課題「いきいきと輝く心と体～つなぐ思い～」

III 渉外・広報

1. 『女子体育』購読促進活動

□広報・普及委員会（寺山理事）

- ・『女子体育』購読会員増員のための活動（広報・普及および編集専門委員会、事務局）。
- ・研修事業における新規及び継続会員獲得、新卒学生への購読推進及び購読期限切れ会員への対応。

2. 国際交流

□国際交流専門委員会(笠井理事)

①国際女子体育連盟事務局、その他諸団体との連携

- ・国際女子体育連盟からニュースレターへの投稿依頼があり、国内の加盟団体に連絡し、日本のIAPESGW会員の掌握をするとともに、村田芳子日本代表から日本の各団体の情報を取りまとめて投稿した。

②国外の情報収集と紹介

- ・体育・スポーツ・ダンス関連についてなどCID (International dance council 国際ダンス協議会)を中心に、海外で開催されるコンペティション、講習、求人などの情報を紹介した。
- ・集団即興の指導者であるニナ・マーチン (アメリカ) を招聘し、体育指導者や体育専攻学生を対象に即興ワークショップを企画、運営を総務と連携し開催した。
(開催日 ; 5月5日 於 ; 国立オリンピック記念青少年総合センター)

③(社)日本女子体育連盟の活動情報の国外への発信

- ・国際女子体育連盟のウェブサイトへのリンクとホームページのイングリッシュガイド情報の更新をした。

3. 企画・広報

□広報・普及委員会(寺山理事)

HP掲載情報の内容を検討、開示情報の更新を進めた。

- ・事業報告・事業計画・財務諸表(決算書・予算案等)及び正会員(事務局)の情報公開
- ・平成22年度全国大会・WS・BSの開催要項をトピックスとして掲載

IV 特別事業

1. 第44回全国女子体育研究大会(東京) Iの1を参照のこと。

(実行委員会)

2. 第23回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

<23rd All Japan Dance Festival-Kobe>

□AJDF-KOBE実行委員会(細川常務理事、猪崎理事)

期 日 8月4日(水)・5日(木)・6日(金)

会 場 神戸市/神戸文化ホール・神戸市立中央体育館

主 催 (社)日本女子体育連盟、神戸市、神戸市教育委員会

主 管 第23回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)実行委員会

後 援 文部科学省、(財)日本体育協会、NHK、(財)全国高等学校体育連盟、全国高等学校長協会、兵庫県、兵庫県教育委員会、(財)神戸市体育協会、(財)ミズノスポーツ振興財団、(財)地域活性化センター

協賛・協力 (株)日本旅行神戸支店、ミズノ株式会社、(財)ユーハイム・体育スポーツ振興会

内 容 8/4 創作コンクール部門予選(高校:大ホール/大学:中ホール)

8/5 創作コンクール部門決選(高校・大学:大ホール)

8/6 参加発表部門(大ホール)

受賞作品上演特別プログラム(大ホール)

表 彰 文部科学大臣賞、NHK賞、日本女子体育連盟理事長賞、神戸市長賞

(以上、高大各1)、特別賞(高大各5)、奨励賞(高大各1)、審査員賞(高4、大1)

参加校数 ①創作コンクール部門 高校/91・大学/30 計121校
②参加発表部門 高校/50・大学/29 計79校
参加人数 ①創作コンクール部門 高校/1,878(内男子65)・大学/493(内男子93) 計2,371名
②参加発表部門 高校/908(内男子38)・大学/474(内男子109) 計1,382名
参加都道府県数 31

TV放映 NHK教育テレビ 8/22(日) 16:00～17:00
8/23(月) 1:00～2:00 愛知・岐阜・三重・高知
8/28(土) 13:00～14:00 徳島

その他 ・第20回大会記念DVD(20年間のテレビ放映映像を含む総集編)販売
・第23回大会のDVD販売の申し込み
・大会の詳細を『女子体育』10・11月号報告特集号に報告

概要 第23回は通常のプログラムで構成された大会であった。参加人数も前年より100名以上増え、多くの観衆が集う充実した例年通りの盛り上がりを見せた。特に、高校創作コンクール部門の参加数が91校とこれまでの最大の参加数となり、創作コンクール部門の参加数は、高校、大学共に今年もまた熱戦が繰り広げられた。参加発表部門は、79作品にAJDF卒業生による3作品も交えて魅力溢れる上演となった。また、第20回大会からAJDF卒業生達が結成した『AJDFサポーターズ倶楽部』(通称:サボちゃんズ)が、お揃いの青いスタッフTシャツを着てさわやかな笑顔で大会を支え、大会運営における重要な役割を担って存在感を示した。

今年、猛暑となり、熱中症を心配しながらの大会運営だったが、練習における熱中症対策を顧問等に厳しく指導をお願いし、一昨年から中央体育館前の広場での練習を中止したこともあって、無事に大会を終えられたことは幸いであった。今大会もまた、これまでの大会と同様にAJDF-Kobeの歴史に新たな1ページが加わったことを実感させる大会であったと言える。

3. ダンスムーブメント指導員(JAPEW-DMIL)養成事業 □指導員制度専門委員会(笹本副理事長)

①「ダンスムーブメント指導員」クリニック

期日 8月9日(月)
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
主管 (社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
内容 実技研修
講師 片岡康子、高橋真琴、林真幾子、村田芳子、笹本重子
受講者 A・B・C級 有資格者 72名

②「ダンスムーブメント指導員」養成講習会 <A級-第7回、B級-第11回、C級-第14回>

期日 8月7日(土)・8日(日)・9日(月)
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
主管 (社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
内容 理論、実技 計21時間 (※7日・8日はサマーセミナーAコース受講に代える)
講師 高橋真琴、高橋和子、飯田路佳、佐藤廣子、細川江利子、寺山由美、佐野裕司
受講者 今年度資格取得希望者 B級・5名、C級・6名 計11名

③「ダンスムーブメント指導員」検定講習会

期 日 9月18日(土)・19日(日)・20日(月・祝)
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター
主 管 (社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
内 容 理論、実技、指導実習 計19時間 ※検定試験
講 師 片岡康子、高橋眞琴、村田芳子、林眞幾子、高橋和子、笹本重子、細川江利子、
飯田路佳、佐藤廣子、寺山由美、川野因
受講者 B級・5名、C級・4名 ※本年度はA級受講者なし
合格者 B級・5名、C級・4名 (うち学生3名)
検定委員 村田、高橋眞、林、高橋和、笹本、細川、飯田、佐藤、寺山
概 要 本年も、優れた資質の指導員を輩出することができ、詳細は『女子体育』10・11月号で報告した。
公認指導員現数は166名。

④広域連携推進事業／ブロックセミナー2010 in 大阪

共 催 大阪女子体育連盟
期 日 平成23年2月19日(土)・20日(日)
会 場 大阪府豊中市(豊島体育館)
内 容 講義と実技、懇親会
講 師 村田芳子、高橋和子、笹本重子、飯田路佳、佐藤廣子、寺山由美、野崎紀子(DMIL-A)
参加数 県外・131名、県内・107名、講師等・10名 計238名
概 要 今年、大阪女子体育連盟が中心となり、NPO法人MGLAのご協力を得て、大阪府の皆さまに熱いご尽力を頂いた。県内外の生涯スポーツ指導者・学校体育関係者等、北海道から鹿児島までの受講者が参加した。片岡顧問・高橋参与・林参与にも見守って頂きつつ、充実したセミナーとなった。さらに、大勢が参加された懇親会では楽しく和やかな交流の時を共有することができた。温かなご配慮とつながりに感謝を申し上げたい。また、県内の方々にDMILへの関心を高めていただけたようであり、普及・促進への嬉しい実りを感じている。

※大阪事務局を担っていただいた白井特別会員より、各県とのつながりが持てた意義あるセミナーであったとのご挨拶と報告があった。

2) 平成22年度 決算および財務諸表報告

笹本会計担当理事より、決算書および財務諸表に基づき平成22年度決算報告があった。
続いて長濱監事より、決算が適切に行われている旨の監査報告があり、平成22年度決算は全会一致で承認された。

3) 平成23年度 事業計画(案)

以下の事業計画案について、理事長より説明があった。JAPEW SUMMER SEMINAR 2011ー平成23年度夏期講座ー 準備状況及び会費設定についての説明の後、平成23年度事業計画案は全会一致で承認された。

I 教育・研修

1. JAPEW SUMMER SEMINAR 2011 ー平成23年度夏期講座ー

□ 生涯スポーツ研究専門委員会、授業・保育研究専門委員会

テーマ ライフステージと表現・ダンス
 期 日 8月19日(金)・20日(土) ABCコース
 会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター
 後 援 (予定) 文部科学省、東京都、公益財団法人日本体育協会、(財) スポーツ安全協会、
 公益財団法人ミズノスポーツ振興財団
 参加者 全国幼・保・小・中・高校および大学、生涯スポーツ指導者 等
 受講料 ABCコース 会員(正会員・特別会員・購読会員) 10,500円 一般 13,650円 学生 5,250円

日程と概要(案)

コース	Aコース(生涯スポーツ)	Bコース(幼児・小学校)	Cコース(中学・高校)	
参加者	定員250名	定員100名	定員100名	
テーマ	新しい明日に向かって 実践と理論をつなごう			
8/19(金)	午前 開講式及び講演(ABC共通) 「身体は使ったように変わる」 中尾和子			
	実技① ダンスムーブメント	【リズム遊び】 (フォークダンス含) 実践と理論	【リズムダンス】 実践と理論	【現代的なリズムのダンス】 実践
	実技② 「コア・ストレッチ&ダンス」 中尾和子	【リズムダンス】 実践と理論	【リズム遊び】 (フォークダンス含) 実践と理論	【フォークダンス】 実践
	実技③ ダンスムーブメント	【表現遊び・表現】 実践と理論		中学校 【創作ダンス】 実践と理論 高等学校 【創作ダンス】 実践と理論
	夜 懇親・復習・相談コーナー			
8/20(土)	午前 ABC共通選択プログラム ⑦ソングリーディング ①フラダンス ②コンテンポラリーダンス ⑧アウェークニングダンス ④太極拳 ⑤講話(人間力とからだ)			
	実技④ ダンスムーブメント	【表現】 実践・理論・議論		中学校 【現代的なリズムの ダンス】 実践・理論 高等学校 【現代的なリズムの ダンス】 実践・理論
	実技⑤ ダンスムーブメント	【フォークダンス】 実践	【リズムダンス】 実践	【創作ダンス】 実践・理論
	実技⑥ まとめ			
	閉講式			

2. 関連研究プロジェクト

(村田理事長)

- 研究タイトル：「元気な子どもと女性のライフステージを保証する運動プログラムの開発
―一体つくり運動（体操）・ダンスプログラムを中心に―」
- 申請者／笹本重子(日本女子体育大学)、高橋和子(横浜国立大学)、飯田路佳(十文字学園女子大学)、
高野牧子(山梨県立大学)、寺山由美(筑波大学)
- 2年目の活動予定
 - ①調査結果の考察 ②有効な運動プログラムの開発 ③運動実践と検証 ④研究成果のまとめ

II 研究・刊行

1. 『女子体育』編集・刊行

□『女子体育』編集専門委員会

①『女子体育』の刊行

年間購読の価格を据え置き、隔月刊・年間6回刊行。

構成は通常号4本、特集号2本（ダンス指導ハンドブック, AJDF報告特集号）とし、前月の25日発刊予定。

②方針

通常号は各号14ページ増、内容構成の再検討により、積極的に質を高め充実させつつ経費を削減し、装丁の見直しを諮る。特集号2本は、ページをさらに拡大して誌面を充実。

ア) 表紙に写真掲載：表紙に写真を掲載し、ビジュアルに訴え、表現・ダンスの特徴を示す。

イ) A5版横書きへの変更：近年、英数字使用頻度が高い点。執筆並びに誌面構成上も横書きの方が簡易である点。より多くの文量を挿入することができる点。出来あがりも読みやすいとご指摘がある点等を受け、誌面の一層の充実を図る為に横書きへの変更を提案。

③年間テーマ 「ライフステージと表現・ダンス」

平成24年度中学校ダンス必修化に伴い、改めてダンスの根源的な魅力や価値を問い直していきたい。人間の歴史の中で培われ、創成していく舞踊文化、学校教育における意義、様々な個性やライフステージに相応した表現・ダンスの内容と指導法等、多様な切り口が考えられる。すべての人がすべてのライフステージで、一人ひとりがその人らしく、表現する機会を保障していくために、本誌で発信していくことを目指す。加えて通常号の体育実践では、必修化される武道など、これまで女子生徒があまり取り組んでこなかったスポーツ種目にも注目し、積極的に取り上げていくこととする。

④通常号（4・5月号、6・7月号、12・1月号、2・3月号）ページ構成

新規項目と変更点は次のとおりである。

ア) インタビューを4頁から6頁へ拡大する。

イ) 表現・ダンス実践研究にクラブやNPO法人など、課外活動や学校外の活動も含めて掲載する。

ウ) 体育・スポーツ実践研究に大学、特別支援を入れる

エ) 新掲載「各県連盟 News!」では、各県、2頁ずつご担当頂き、3団体を紹介する。

内容は、1年間の活動報告ではなく、各県で有名な先生の紹介、県の特色ある活動、新入会員の獲得術、運営資金の獲得・やりくり術、県教委との連携など、各県が共通に抱えている問題や、素晴らしい人材、活動の紹介をしていただくこととする。『女子体育』は機関紙であり、加盟団体相互の情報交換の頁としていきたい。初年度は、全国理事からご執筆いただく予定で

ある。

⑤価格 年間購読料（これまでと同じ） 一般購読 5,500 円（税込み）、学生購読 3,500 円（税込み）
（単独価格は、通常号 950 円、特集号 1,200 円）

⑥月テーマ

○4・5月号「その気にさせる」：年度始めにあたり、「踊ってみよう、表現してみたい」という興味関心を引き出すための、動機づけの方法や興味関心の高い題材、やる気を引き出す環境設定や工夫など、子どもや受講者の心をつかむ内容を紹介していく。

○6・7月号「本気になる瞬間（とき）」：楽しく始めた表現活動やダンスレッスン、一般スポーツの練習であっても、難しい壁にぶつかり、つまづきを感じることもある。その壁を乗り越え、一步先に進めるための指導や支援の方法、言葉かけや勇気づけなど、本気に取り組む姿勢を導く指導法などを提案する。

○8・9月号（特集号）120p

「ダンス指導ハンドブック第3弾！ 小・中・高のダンス単元とさらに進んだ素材集」
これまでハンドブックⅠ・Ⅱでは様々な素材を豊富な写真と共に紹介し、好評を得た。

第3弾の今年度は、前半部分において学校期を中心に、6頁の割り当てで、単元計画と授業展開について事例を紹介し解説する。後半部分ではできるだけ、全国の現場の先生から様々な素材について多くの写真を交えて紹介していただく。

○10・11月号（特集号）120p「第24回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)特集号」：

これまでと同じ内容に加え、参加校全ての写真が掲載できるよう、頁数を120頁に拡大し、誌面の一層の充実を図る。

○12・1月号「かかわりから生まれる」：表現・ダンスの世界は「いつでも、どこでも、だれとでも」という特性をもち、多くの人と自然に関わり合い、共感しあえる世界である。仲間との関わり、通じ合えることの喜びなど、様々な活動を紹介しながら、人間関係に焦点を当てて、誌面を構成していく。

○2・3月号「未来へつなげる」：1年間の締めくくりとして、点数化、数値化が難しい領域である表現・ダンスについて、活動をどのように評価し、フィードバックをかけ、改善に結び付けていくか、論議していきたい。表現運動での学習カードや振り返り用紙の活用、大学での授業評価など、プラス思考で未来へつなげる方策を検討していく。また、特集として、新潟で開催される全国大会での研究授業、公開授業などの報告を掲載する。

※3月の総会が延期になったため、装丁の変更（表紙に写真挿入、A5判横書き）については、事前に郵送にて正会員・特別会員にお諮りし、葉書回答で承認を得て、4・5月号を刊行した。

2. ウィンターセミナー（第55回未来世代の研究発表&卒業ダンス発表会）

□研究交流専門委員会

期 日 平成24年2月11日（土）

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター(リハーサル室等)

内 容 ①卒業論文・修士論文・博士論文の発表

＊口頭発表及びポスター発表、発表論文の中から優秀論文を『女子体育』に掲載

②卒業ダンス発表会

3. 「学術研究」刊行

□学術研究編集委員会

「(社)日本女子体育連盟 学術研究第28号」を刊行する。論文投稿締め切りは8月末日。

4. 関連研究

(村田理事長)

(継続) 新潟県女子体育連盟：共同研究者 高橋和子

研究テーマ「いきいきと輝く心と体～つなぐ思い～」

(新規) 兵庫県女子体育連盟：共同研究者 寺山由美

研究テーマ「Heartbeat & Heart-ship ～こころの架け橋～」

Ⅲ 渉外・広報

1. 国際交流

□国際交流専門委員会

①国際女子体育連盟事務局、その他国外の諸団体との連携

国際女子体育連盟・島内敏子理事と(社)日本女子体育連盟・村田理事長(日本代表)との連絡
日本のIAPESGW会員の把握

②国外の情報収集と紹介

CID(International dance council 国際ダンス協議会)などからの情報を翻訳し紹介
その他、女性と体育・スポーツ・ダンス関連についてなど

③(社)日本女子体育連盟の活動情報の国外への発信

国際女子体育連盟のウェブサイトとのリンク

ホームページのイングリッシュガイドの情報を更新

(社)日本女子体育連盟の年間活動をIAPESGW Bulletin、及びNews Letterに投稿

④海外の講師による講習会を総務と連携し開催・・・中止

※アドリアン・ルーシー氏(スイス)による集団即興ワークショップを企画し、5月4日の開催を
予定していたが、震災の影響で講師来日がかたならず、本企画は中止した。

2. 広報・普及

□広報・普及委員会

①『女子体育』購読促進活動：会員増員のための活動(事務局・編集委員会連動)

研修事業における新規及び継続会員獲得、新卒学生への購読推進および購読期限切れ会員への対応。

②ホームページ掲載情報の内容検討及び開示情報の更新

- ・学協会情報発信サービスにおけるHP構築・提供支援の終了に伴い、連盟HPを新たに構築する。
- ・事業報告・事業計画・財務諸表(決算書・予算案等)の情報公開。
- ・各県情報のHP化/各県教委等、他団体との相互リンクについて検討をすすめる。

Ⅳ 特別事業

1. 第45回全国女子体育研究大会(新潟大会)

(実行委員会)

期 日 11月18日(金)・19日(土)

会 場 新潟県民会館 他

主 催 (社)日本女子体育連盟 新潟県女子体育連盟

後援 (予定) 文部科学省、新潟県、新潟県教育委員会、新潟市、新潟市教育委員会、他
テーマ 「いきいきと輝く心と体～つなぐ思い～」
内容 分科会 (18日) 校種別及び生涯スポーツ
全体会 (19日) 開会式・表彰式、特別プログラム

※新潟・外山理事より「各分科会の準備は順調に進み、全体会では「Noism」のパフォーマンスを予定している。是非多くの方に参加していただきたい。」旨のご挨拶と報告があった。

2. 第24回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

<24th All Japan Dance Festival-Kobe>

□AJDF-KOBE実行委員会

期日 8月7日(日)19:00～開会式・8日(月)・9日(火)・10日(水)
会場 神戸市／神戸文化ホール・神戸市立中央体育館
主催 (社)日本女子体育連盟、神戸市、神戸市教育委員会
主管 第24回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)実行委員会
後援(予定) 文部科学省、公益財団法人日本体育協会、NHK、(財)全国高等学校体育連盟、
全国高等学校長協会、兵庫県、兵庫県教育委員会、(財)神戸市体育協会、
公益財団法人ミズノスポーツ振興財団、(財)地域活性化センター
協賛・協力 (株)日本旅行神戸支店、ミズノ株式会社、(財)ユーハイム・体育スポーツ振興会
内容 ①創作コンクール部門(高校／予選・決選、大学／予選・決選)
②参加発表部門
③特別プログラム(創作コンクール部門高校・大学受賞作品)
*特別プログラムは、大ホール有料公開に加え、中ホールへの映像配信を行い、
Public Viewing方式をとり、有料公開する。(入場料:大ホール¥4,000 中ホール¥2,000)
表彰 文部科学大臣賞、NHK賞、日本女子体育連盟理事長賞、神戸市長賞、特別賞、
奨励賞、審査員賞
その他 ・参加申込要項等はHPに掲載
・大会詳細は『女子体育』10・11月号報告特集号に報告

3. ダンスムーブメント指導員(JAPEW-DMIL)養成事業

□指導員制度専門委員会

1) ダンスムーブメントB級(中級)指導員の受験資格条件に新たな条件を追加

<趣旨>

学校教育に長年関わり、特に体育指導を専門とした教員が、健康づくりや体力づくり等を
目的とする地域スポーツの指導に携わろうとする際に、その姿勢や活動を支援するため。

<追加する新たな資格条件>

現行のB級受験の資格条件に、3)を加える。

【ダンスムーブメントB級(中級)指導員の場合、次のいずれかを満たす】

- 男女とも、受験する年の4月1日現在、満20歳以上で
- 1)ダンスムーブメントC級指導員資格を取得後、3年以上のダンスムーブメント指導キャリアを有している方
- 2)大学・短期大学・専門学校の体育専門課程に在籍または修了しダンスを専攻、「サマーセミナーA」に過去2回以上参加、所定の科目を修了している方
- 3)小・中・高等学校における体育指導経験を原則として10年以上有する教員(元・現)で、「サマーセミナーA」に過去2回以上参加、所定の科目を修了している方
- 4)それに相当する理論・実技の力量と指導実績を有し「サマーセミナーA」に2回以上参加、所定の科目を修了している方

※「サマーセミナーA」は、ブロックセミナー受講に代えることも可。

2) 研修および講習会

①「ダンスムーブメント指導員」クリニック

期 日 8月21日(日)
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター
主 管 (社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
内 容 講義、実技等
受講料 5,000円

②「ダンスムーブメント指導員」養成講習会 <A級-第8回、B級-第12回、C級-第15回>

期 日 8月19日(金)・20日(土)・21日(日)
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター
主 管 (社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
内 容 理論、実技 計21時間 ※19日・20日はサマーセミナーAコース受講に代える
受講料 各 15,000円

③「ダンスムーブメント指導員」検定講習会

期 日 9月17日(土)・18日(日)・19日(月・祝)
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター
主 管 (社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
内 容 理論、実技、指導実習 計19時間 ※検定試験
受講料 A級/25,000円、B級/25,000円、C級/15,000円(受験料/10,000円)

④広域連携推進事業/ブロックセミナー2011 in 香川

生涯スポーツの振興およびダンスムーブメントの普及、本部と加盟団体(ブロック)のネットワークづくり等を目的として開催する。

共 催 香川県女子体育連盟
期 日 平成24年2月18日(土)・19日(日)
会 場 高松市総合体育館

※平成24年度の主管は、当初予定の宮城県から香川県に変更になった。

※香川・小坂特別会員より開催日程、会場についての説明があり、是非お越し頂きたいとの挨拶があった。

4) 平成23年度 予算(案)

笹本会計担当理事より予算案の説明があり、平成23年度予算案は全会一致で承認された。

5) 会員の承認等について

高橋副理事長より、資料(「(社)日本女子体育連盟22年度・23年度会員加盟状況(平成23年5月20日現在)」)に基づき新規会員の状況について説明があり、平成22年度・23年度正会員および特別会員が全会一致で承認された。

6) 公益社団法人に向けた日本女子体育連盟役員定款案について

はじめに村田理事長から公益法人化に向けての方針とこれまでの経過について、趣旨説明があり、続いて、資料(「公益社団法人日本女子体育連盟組織図(定款改正案)」)をもとに、変更点についての説明があった。次に、高橋副理事長より資料(「公益法人日本女子体育連盟定款(案)」)に基づき、大きな変更となる条文について、現行の定款と対比しながら説明があった。理事、会員の様々な質問・意見交換の後、組織図改正案および定款案は全会一致で承認された。

7) その他

平成24年度 第46回全国女子体育研究大会開催予定の兵庫県・松尾理事、平成25年度 第47回大会開催予定の山梨県・岡部正会員より準備状況についての報告があった。

○すべての審議終了の後、加盟団体による情報交換会が行われた。

各加盟団体との双方向での情報共有を目的として、グループセッション形式での『情報交換会』を企画した。常務理事、理事、正会員、特別会員に加え、会長、顧問、参与も参加し、7グループに別れて行われた。内容はグループ毎の設定であったが、会員数や会費等の財政面から、研究会やダンス発表会等の活動状況、さらに、男性の参加・若手会員の加入・ダンスの必要性、等々、今後に向けての提言や公益法人化についてなど、多岐に渡る視点で話し合わせ、充実した時間となった。

7. 議事録確認 書記（西田委員）より議事録の確認があった。

8. 閉会宣言 笹本副理事長

平成23年5月22日

議 長 理 事 長 村田 芳子

署名人 常務理事 細川江利子

理 事 寺山 由美